令和元年度（２０１９年度）学校評価表

熊本県立牛深高等学校

１ 学校教育目標

教育方針（校訓）：「敬愛」・「勤勉」・「創造」
心豊かで、自ら考え行動できる生徒の育成
○学力　　：「学び直しから大学入試まで」 に対応
○学校生活：「安心安全な学校生活」　　の実現
○指導　　：普通総合学科の特色を活かした丁寧な指導

２ 本年度の重点目標

（１） 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進
（２） 生徒の未来を切り開くための学力の充実
（３） 特色ある教育活動の実践人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	牛高esseをもとにした学校づくり	牛高esseの周知と職員への意識化	・学習指導案や実施要項等での項目化 ・学校評価アンケートの関連項目が前年度比+１ﾎﾟｲﾝﾄ以上	・起案の段階で確認 ・校内掲示 ・保護者への配付	A	・体育大会や公開研究授業などの各種行事や、学期始めと終わりの式典における講話、教室掲示など随所で牛高esseを意識的に扱い、教育活動に取り組むことができた。 ・学校評価アンケートの関連項目の結果から職員は前年度比+７ﾎﾟｲﾝﾄと意識的に取り組んだ成果が出た一方で、生徒は前年度比-17ﾎﾟｲﾝﾄと下げている。次年度は生徒を対象とした振り返りをおこなうなど、目標とする力の定着を意識させることが必要である。
		牛高esseを機能させていくためのPDCAサイクルの確立	・牛高esseの振返りを行い、次年度に向けた項目の検討と再構築の場をつくる	・先進実践校の事例やアンケートを活用してＳＩ改善のシステム化を行う	A	・２学期末に職員研修を通して､牛高esseの振り返りに向けた評価の構築を開始した。今後は次年度に向けたSIの評価ならびに再構築を進める
	働き方改革の推進	セルフマネジメント・組織内コミュニケーションの充実	・時間外勤務の縮減 ・年休取得日数　１人平均10日以上 ・業務の見直しによる効率化	・月２回のカエルデーの設定 ・一斉休業日の指定	B	・月２回のカエルデー(１回は生徒のみ)を設定し、一斉休業日も設定できた。 ・「仕事の棚卸し」の活用による効率化かを図ったが、時間外勤務の大幅縮減には繋がっていない。
	危機管理能力の育成	問題発生時の実践的行動力の育成	・危機管理マニュアルの活用 ・学校評価アンケートの関連項目が前年度比＋１ﾎﾟｲﾝﾄ以上	・訓練の実施 ・事案発生後の検証	A	・危機管理マニュアルを活用しやすいものに改善し、２回の訓練を実施できた。

学力向上	家庭学習習慣の形成	家庭学習習慣を形成するためのデータの活用性向上	・家庭学習時間調査データの蓄積と活用 ・学校評価アンケート（生徒）の関連項目が同年次の前年度比＋１ﾎﾟｲﾝﾄ以上	・考査前に加え、不定期での家庭学習時間調査の実施 ・調査用紙の改定とデータ化（教科毎宅習時間） ・生徒、年次、教科で有効活用できる調査のデータ提供ならびに分析をおこなう	B	・年次の要望を反映させながら、教科毎宅習時間や平日、休日の区別などを盛り込み、指導に活用しやすい調査用紙に改定できた。 ・随所で指導には活用いただくなど学習習慣の定着に向けて対策を講じたが学校評価アンケート（生徒）の関連項目において、[前年度比-8ポイント]と目標を下回り、依然として生徒の宅習時間向上には課題を残している。次年度以降も継続して取り組みたい。
	教科指導力の向上	わかる授業の実践	・学校評価アンケートの関連項目(生徒)90%以上、(職員)95%以上、意識の差、前年度比-1ﾎﾟｲﾝﾄ	・教育センター指導主事等の活用 ・公開授業、授業評価、自己評価がリンクした授業改善システムの継続実施 ・基礎学力診断テストを利用した教科横断的取り組みの実施	A	・学校評価アンケートの学力向上への取組状況の評価[職員96%、生徒89%]から概ね満足できる結果であった。外部講師の招聘、授業改善の事例紹介、職員研修などが機能した成果と言える。 ・本校における授業改善システムの軸でもある授業評価アンケートに関しては、例年数値の高止まりの傾向がある。より実態を把握できるものへ改定をはかることも学力向上に繋がるための次年度にむけた課題である。
キャリア教育(進路指導)	進路指導の体制の整備	生徒が夢を叶えるサポート体制の構築	・進路希望の100%達成 ・進路指導活動の計画的実施と充実化 (目標値:関連項目前年度比[職員]＋+ﾎﾟｲﾝﾄ、[生徒・保護者]+3ﾎﾟｲﾝﾄ) ・進路情報の適切な提供 (目標値:関連項目前年度比[職員・生徒・保護者]+5ﾎﾟｲﾝﾄ)	・進路指導についての職員研修実施 ・進路指導の計画的組織的実施 ・模擬試験結果データの分析や求人票一覧の改善 ・進路だよりの適時発行 ・個別添削、小論文指導、面接指導など全職員による指導体制の充実。	B	・ベネッセの協力で新学習指導要領や大学共通テストについて職員向け研修を行い、高校生のための学びの基礎診断については結果分析等を行うことができた。 ・模擬試験は計画的に行い、さらには他校の協力を得て合同模試を実施できた。 ・ＨＰ等を活用し進路情報の適時発信を積極的に行いたい。
	将来設計能力の育成	自己理解の深化及び適切な勤労観・職業観の育成	・働くことの意義についての理解 (目標値：アンケート関連項目前年度比[職員・生徒・保護者]+5ﾎﾟｲﾝﾄ)	・進路についての個人面談の実施 ・専門職による学校や職業説明会、講演会等の実施 ・ＬＨＲや産社、総学における進路についての活動の	A	・２者面談に加えキャリアサポーターや進路指導部で個人面談を実施できた。 ・３年次生の受験対策に全職員での個人添削や面接指導等を行うことができた。

			・表現する、伝える力の育成 （目標値：アンケート関連項目前年度比［職員･生徒･保護者］+5ﾎﾟｲﾝﾄ）	充実化 ・面接試験指導、小論文指導の計画的実施 ・ポートフォリオの実施 ・高校生のための学びの基礎診断の活用 ・課外・土曜講座（ステップアップ講座）の充実		・模擬試験対策の土曜講座を１度実施したり朝自習に模擬試験の過去問題を配布したりして生徒の意識向上につなぐことができた。 ・ポートフォリオを職員の意見を反映させながら改善していきたい。 ・１年次生はジョブカフェの協力でライフプランニング講座を本校で実施し将来設計の立て方等を学ぶことができた。 ・２年次は、熊本市にお仕事探検フェアに参加し、様々な職業や学業について専門家からの説明を聞き、将来について考えることができた。 ・校内での職業ガイダンス、熊本市や天草市での進学ガイダンスに参加して進路への意識を高めることができた。
生徒指導	牛深高校生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成	基本的生活習慣の実践 互いの成長を目指す姿 地域との交流	・基本的生活習慣の確立 ・各種ルール・マナーの理解と実践 ・新入学生徒数の増加	・登下校指導 ・集団行動を伴う各種集会等の活用 ・年次･HR掲示板の活用 ・校外活動における地域との連携	A	・部署ごとに連携して取組み、情報共有をした結果、問題行動等の未然防止につなぐことができた。
	交通安全・防犯意識の定着	正しい交通ルール・マナーの理解と実践 施錠の有無（私物の管理）	・交通事故未然防止 ・交通違反０ ・二輪車施錠率の向上 ・個人ロッカー使用状況の改善	・登下校指導 ・定期点検 ・巡回指導 ・啓発・広報活動（掲示板の活用等） ・地域との連携	A	・担当ごとに計画的に取組を実施することができた。 ・今後も何もなくて当たり前であっても報告･連絡・相談を徹底させていく。
	情報安全・情報モラル教育の推進	情報安全・情報モラル教育に関する指導強化	・携帯端末機器等の使用法や危険性などについて理解する（12月実施心のアンケート数値改善） ・フィルタリング率の改善（心のアンケート数値改善） ・個人情報保護の意識の定着（書き込みによる人権侵害やSNSトラブル件数0件）	・情報モラル教育に関する講演会を実施（年１回） ・情報モラルに関するリーフレットの配布（年３回学期末） ・家庭での携帯端末使用等のルールの設定のための、担任等による家庭訪問や学級通信等での情報発信	B	・情報モラルについては、家庭でのルールはあるものの、生徒任せ（特に利用時間の上限）の状況にあるため、外部講師を呼んでの講話や、情報モラルに関するリーフレットを配付するなどして生徒の意識の向上を図る取組みをすることができた。今後も機会を捉えた指導を継続する。
	ボランティア活動	地域への貢献度 主体的行動の増加	・地域理解 ・主体的参加者の増加	・地域との連携 ・職員の協力態勢 ・周知活動の強化	A	・多くのボランティア活動への積極的参加により、本校生の存在感を地域に示すことができた。

	健康相談・教育相談	生徒支援体制の確立と強化	・生徒支援体制の調整、検討機関として教育相談委員会(含特別支援委員会)の活用 ・SCの活用の充実に向け、職員、生徒、保護者に周知 ・学校評価アンケート関連項目90%以上	・各定期考査毎に教育相談委員会（含特別支援委員会）を開催 ・SC来校日をホームページや保健便りで周知 ・職員研修等でSCを活用	A	・各定期考査毎に教育相談委員会を開催し、課題を抱える生徒について職員間での情報共有を行うことができた。 ・ＳＣ来校日をホームページに掲載、保健室前に掲示板を作成し周知した。ＳＣ継続利用の生徒もいるが、予約もほぼ毎回埋まり活用できている。また、１学期の生徒理解研修でＳＣを活用し、合理的配慮について研修を実施することができた。 ・学校評価アンケートの関連項目では、職員及び保護者においては９０％以上であったが、生徒では９０％を少し下回る結果であった。
人権教育の推進	人権を守ろうとする意識・意欲・態度の育成	人権ＬＨＲの充実	・外部講師を招いて全校生徒への講演会の実施 ・年次職員全体で人権ＬＨＲの内容を構築し、授業を行う	・外部講師を招いた講演の実施 ・本校の現状を見据えた人権ＬＨＲの内容の精選	A	・外部講師による講演会については情報モラル教育について本校の課題に即したを行った。 ・学校評価アンケートにおける「職員研修の充実」の項目が７０％と低かったため、次年度は年度当初に研修計画を立てたり、外部研修への積極的な参加を促したりしていきたい。
	自他の“いのち”を大切にする心の育成	いじめのない学校づくり	・学校評価アンケート関連項目＋1ﾎﾟｲﾝﾄ以上(生徒、職員、保護者)	・年次会､人権推進委員会､相談委員会において､生徒の小さな変化を見逃さないための情報共有	A	・年次会や推進委員会において人権教育を推進する協議や授業を行い、こまめな情報共有を行うことができた。 ・学校評価アンケートにおける、人権に配慮した教育は教職員、保護者、生徒ともに９０％を上回っており、次年度も全職員で人権教育を徹底していきたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止	自他の存在を等しく認め、互いの人格を尊重する態度の育成	・共感的理解を可能にする情操とコミュニケーション能力を育てる ・自己有用感や充実感を得る	・生徒に関する情報の収集及び共有 ・日頃の見守り活動 ・生徒中心の実践活動 ・保護者との連携	A	・安全管理部と各年次等が連携して情報共有と対応策を検討し、必要に応じて保護者とも連絡を取りながら対応することができた。 ・今後もさらに生徒の小さな変化を見逃さず、情報収集等に努めていきたい。

	いじめの早期発見	生徒と的確に関わり、いじめを隠したり軽視したりすることのない、積極的ないじめの認知	・教職員の「気づき」力の向上	・アンケートの実施（年３回） ・相談窓口の周知と相談しやすい環境づくり ・定期的な個別面談や教育相談会議の実施と職員間の情報の共有及び連携	A	・年３回のアンケートを実施することができ、気になる生徒については直ちに組織としての対応することができた。 ・日頃から生徒の異変に気づくよう職員の感性を磨いていく必要がある。
	いじめへの対処	いじめを把握後の適切な対処	・教職員の対処スキルの向上	・職員研修［教育相談･いじめ対処］の実施 ・いじめ防止基本方針及び重大事態への対応ﾏﾆｭｱﾙの周知 ・対処の組織化（いじめ防止対策委員会）	A	・安全管理部会を中心にケースワークを行うことができた。 ・家庭も含めた組織としての対応をさらに努めていきたい。 ・いじめ防止対策委員会で課題への対応を協議する中で、外部専門家から貴重なアドバイスをいただくことができた。
地域連携	学校安全の取組の推進	危機管理能力の育成	・避難訓練､救急救命法研修の計画的実施 ・総合防災マップ等の周知徹底及び防災意識の向上（災害伝言ダイアルの体験実施率70％以上）	・リーフレットの配布 ・他教科との連携 ・職員研修の実施 ・防災教育及び研究授業の実施	B	・防災に関する情報を発信し、災害伝言ダイアルや風水害時の避難について呼びかけた。 ・市の担当者と連携し新たな避難経路を想定した避難訓練を行うことができた。
	総合型コミュニティスクールの推進	地域住民や関係機関との連携	・来年度実施に向けて体制整備	・実施要項等規定の作成 ・組織の整備	A	先進校の取り組み状況の情報を聴き、本校での総合型コミュニティスクールへの移行の準備が概ね整っている。
情報センター機能の充実	図書館教育	・読書習慣の定着 ・図書館利活用による情報活用能力と課題解決能力の育成	・学校評価アンケート関係項目（朝読書を通じて読書の習慣化）７５％以上 ・図書館利用授業時数：１００時間以上	・図書館内外の掲示や広報により図書館の情報を発信 ・朝読書の巡回 ・授業担当者と連携し、資料を準備	B	・毎朝の朝読書を継続することはできたが、読書習慣の定着はクラスにより差がみられた。 ・図書館利用授業時数は３年次が７割を占めた。年次や選択授業に偏ることなく利用を進め、情報活用能力や課題解決能力を育てたい。
	ＩＣＴ活用の推進（情報センターとしての役割）	・情報活用能力の育成 ・教科指導におけるＩＣＴ活用の推進 ・校務の情報化の推進	・学校のＩＣＴ環境整備 ・教職員の活用頻度、スキルの向上 ・グループウェア、サーバ、文書セキュア等の効率的活用	・情報機器等の活用法の情報提供・発信 ・校内研修の実施 ・ネットワーク委員会を活性化させ、校内の環境整備を促進する	A	・薄型軽量プロジェクタや拡大印刷機の導入､プロジェクタ常設教室の配備､パソコン室の最新設備更新等、設備の充実を図ることができた。 ・校内サーバと文書セキュアの使い分けを進め、利便性の高いソフト活用研修を実施し、教職員のスキル向上、作業の効率化につなぐことができた。

４ 学校関係者評価

教育目標、重点目標に対して充実した取組がなされている。「成果と課題」も適切に整理されており、評価も妥当である。

授業や行事においては、きめ細かな指導の成果をうかがうことができる。公開授業では高校生が授業中にこれほど意欲的に活動できるものかと感心した。学校アンケートでも授業を見る目が学校全体で高まっていることがうかがえる。行事の面では総合学科発表会は素晴らしい発表をたくさん見ることができた。ポートフォリオは先生方の負担になるものかもしれないが、振返りでの活用など、活用方法については工夫をしていく必要がある。

地域においてはボランティア活動をはじめ、全国規模で活躍する郷土芸能部の活動など、地域への貢献・活躍が今年度も目立っており、地域における牛深高校の存在感は大きい。しかし、活躍する生徒の確保が必要であり、そのために牛深高校のよさをどのように地域に訴えていくかが課題である。今年度は中学校への出前授業を３年生に、体験授業を１・２年生に実施されており中学生に好評であった。中高の生徒会の交流もできないか、今後検討できるところから始めたらどうか。

次年度も地域の中での存在感を高める取組に期待しており、保護者、地域の代表として参加している我々関係者も積極的に応援していきたい。

５ 総合評価

学校の教育目標について、その実現を目指し、本年度、本校独自で育成したい生徒像をまとめた「牛高esse」を作成し、行事を中心に活用を図った。「授業づくりの指針」も昨年度に引き続き日常の授業で取組を進め、また、公開授業･研究授業で活用した。

本年度の重点目標については、自己評価総括表を踏まえると次のとおりである。

（１）人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進

大項目「人権教育の推進」及び「いじめの防止等」等の評価を総合して、人権尊重の精神に基づく各種教育活動を適切に展開し、生徒の成長を促すことができ、職員についても意識を高めることができた。特別活動においての課題に対する体験型の授業や、日常的に「相手の意見を否定しない態度」の育成を意識できた成果である。

（２）生徒の未来を切り開くための学力の充実

学力の充実に関しては、小項目「教科指導力の向上」に一定の成果が見られた。大項目「キャリア教育」において、ＰＤＣＡを意識させるポートフォリオの活用等、生徒のキャリア意識の育成の点で成果がみられた。いずれも「牛高esse」で生徒につけたい力を明確化したことによる効果が大きい。

（３）特色ある教育活動の実践

大項目「地域連携」、小項目「教科指導力の向上」「ボランティア活動」の評価を総合して、開かれた学校づくり、魅力あふれる学校づくりの両面で大きな成果がみられた。外部講師を招いたり、地域の関係機関の協力を得たりしながらの授業を実践するとともに、「牛高新聞」やホームページで情報提供することができた。

６ 次年度への課題・改善方策

学校教育目標達成に向け、重点目標に沿った取組を推進し、成果も上がったとみているが、本校の教育活動の魅力が地域に十分伝わっていたかという点で課題が残る。次年度に向けては、進路に関する情報発信と中学校との連携に力を注ぎたい。

小項目「働き方改革の推進」については、学校閉庁日やカエルデーなどの定時退勤日を定めてはいるものの、職員のタイムマネジメントという点でも課題が残った。職員が共通理解のうえ教育活動の中で取り組めるよう環境作りをする必要がある。

小項目「家庭学習習慣の形成」については職員の意識も高まってきており、来年度は学力向上委員会をはじめ、教科会等で共通理解を深めたうえで、家庭学習習慣の形成だけではなく、質を高める取組も進めたい。